

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第21号

2011年7月



- 第50回 北辰メディカルフォーラム
- 南三陸町で医療支援を行って
- 医療の現場から
- 看護の日
- こんにちは 医療連携・相談室です
- リンパ浮腫ケア外来のご案内
- あつこい in 札幌社会保険総合病院

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。



URL <http://www.sapporo-shaho.jp/>

第50回 北辰メディカルフォーラム

副院長 吉田 純一

平成23年5月25日に北辰メディカルフォーラム第50回記念講演会を、シェラトンホテルを会場に開催しました。(共催第一三共製薬) 50回の記念講演にふさわしい方をと考え、札幌医大の島本和明学長をお招きし“北海道における地域医療の現状と課題”と題して講演をいただきました。

座長は新さっぽろ循環器病院の佐々木孝理事長にお願いしました。当日は盛会裏に終始し、参加していただいた方には心から感謝します。(手稲区の知人もいました)



北辰メディカルフォーラムは平成8年9月6日に、当時山口大学第一内科の沖田極教授(現下関厚生病院院長)の講演で始まりました。

以降、年3-5回のペースで開催され50回を迎えています。この間演者は医師・医学者に限らず看護、薬剤関係者からさらには医学・医療以外の分野からも多数の講演を頂いてきました。平成20年4月は元日ハムの白井一幸氏でありました。皆様には心よりの感謝を申し上げます。

運営に当たっては、世話人、幹事、顧問には当院職員のみならず、厚別区における医療



関係の方にご協力いただいています。これまで運営に協力頂いた方々に感謝申し上げます。

代表世話人は、初代が関谷千尋元副院長、次に大西勝憲前副院長、そして私が3代目であります。

50回の間、多くの方に参加していただき大変感謝しております。これからも、さらに皆様のご意見も取り入れ、有意義な勉強の機会としたいと思っています。よろしく願いいたします。



南三陸町で医療支援を行って

外来 皮膚・排泄ケア認定看護師
神下美雪

消化器科の小野先生・薬剤部の浅野副部長と私、3人は震災から1か月経過した4月18日、南三陸町で医療支援を行いました。早朝の飛行機で岩手花巻空港に向かい、そこから2時間以上かけて南三陸町に入り、目にした光景は一体ここはどんな町であったのか全く想像が出来ない悲惨な状況、瓦礫と作業する自衛隊の機械的な音と車の音が聞こえない。そして、自衛隊が集まって手作業しているところは多分、御遺体が見つかったところ・・・道端におかれている誰かの思い出の品々と、その中から自分たちの思い出を探す人々。あまりに残酷な光景でした。搬入された御遺体も100体以上は未だ、身元が確認されていません。



区を担当している保健師に往診で継続してほしい患者や気になる患者、地区の現状等を話し引き継ぎをおこないました。



私たちは入谷地区を担当しました。そこは、10区にわかれており640人以上が避難している地区です。そこを、1日2区ずつ巡回診療と往診をおこないました。短時間で必要な情報を聞き出し問診を行い、時には診察の介助も（O先生は全部自分で進んで行ってくれたので、ほとんど放置。先生、今更ですが、ごめんなさい）

カルテを探したり、事務的な事から予防のためのケア説明、感染を発生させないよう環境を整えるため、時には区長さんに手指衛生についての指導や汚物やごみの管理等の指導も行いました。最終日には、地区



私は「皮膚・排泄」という仕事柄か、男性トイレが気になり・・・男性トイレ（尿の方）は壁がなく、いきなり尿器!! みなさん用を済ませたら手も洗わず何もなかったかのように退散。その尿器もみんなが通るところにいきなりあるので、目のやり場に困る。洋式トイレ風なものも、ベニヤ板で囲んであるだけで丸見え!! それまた目のやり場に困る感じで・・・女性も、尿と便をするトイレはわかれており、拭いたティッシュは便器に捨てないように、大

きなビニール袋が貼られておりそこに捨てるようになっていました。

滞在していた1週間は毎日、余震が続き、経験したことが無いような大きなゆれと地鳴り・・・（そして、隣の部屋から毎夜聞こえる、大きなイビキ・・・それも時々、止まっては復活する・・・多分、睡眠時無呼吸症候群??）そして、もうひとつは、年齢的なものからか目覚めが早く、朝からシャワーで清潔な感じ・・・?という日々を過ごしておりました。

南三陸町の支援を行ってみて、もし自分が今まで経験したことが無いような震災が仕事中に発生したら、はたして自分は訓練したとおりに患者を誘導してトリアージして・・・出来ると言いきれるであろうか。訓練することの重要性を再認識しました。今、生かされている自分の1日は亡くなった方が生きたかった1日・・・色々な事を考え感じた1週間でした。



これからも、3・11を忘れることなく、今後、自分の出来ることを継続して行こうと思います。



眼瞼下垂、外斜視、加齢黄斑変性症、網膜剥離の治療を始めました

眼科部長 吉田和彦



高齢化社会に伴い増加している眼疾患に、眼瞼下垂と外斜視、加齢黄斑変性症があります。

眼瞼下垂は、まぶたが開きにくくなっている状態です。(図1)無理に眉毛を持ち上げて眼を開けようとするため、おでこにしわが寄り、疲れます。加齢に伴うものの他、コンタクトレンズ装用、白内障手術によっても起こります。眼瞼下垂は眼瞼挙筋腱膜がはずれていることが原因であるため、元通り縫い付ける手術を行います。当科では炭酸ガスレーザーを用いて手術を行います。炭酸ガスレーザーを使用すると、普通の手術と比べて出血が少ないのが特徴です。手術を受けた方の多くは、「もっと早くやっておけばよかった」とおっしゃいます。顔つきが明るくなって元気がでるようです。



図1

斜視は以前子供の疾患と考えられていましたが、最近では高齢の方の斜視が増えています。なかでも、普段は斜視でないのに、疲れたりボーっとすると外斜視になる間欠性外斜視が多くの割合を占めています。(図2)高齢者の外斜視の特徴としては白内障などの進行により外斜視になる頻度が徐々に多くなることです。また、高齢者の外斜視のものが2重に見える、眼が疲れるなどの症状を伴うことも特徴です。間欠性外斜視には、眼を外側に動かす筋肉(外直筋)を付着部で切断し、後方に縫いつける手術を行います。最近ではテリー伊藤さんがこの手術を受けて話題になりました。

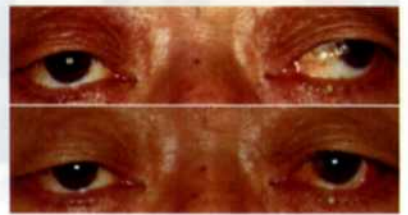


図2

加齢黄斑変性症の症状はものがゆがんで見えることです。近年、加齢黄斑変性症に対して血管内皮増殖因子に対する抗体を硝子体内に注射する治療が行われるようになり、当科でも4月より開始しました。

当科では、網膜剥離に対する強膜内陥術も開始しました。網膜剥離の初期症状は糸のようなものが見えることです。そのような症状がありましたら是非ご相談下さい。

看護の日

5月12日は「看護の日」。「看護の心をみんなの心に」をメインテーマとして全国各地で様々なイベントが開催されています。



当院においても高校生の「一日ふれあい看護体験」として札幌第一高等学校・北海道北広島高等学校・立命館慶祥高等学校の10名の高校生みなさんに看護師の仕事を経験してもらい、イベントに集まっていた皆さんの前で自ら体験したことを発表してもらいました。



また、ミニコンサートとして北海道教育大学岩見沢芸術科音楽コース卒業のアルトサクソフォン武内美穂さんと川辺美穂さんのピアノによるthe カルメン等の演奏を心地よく聴くことが出来ました。

職員からの持ち寄りによるバザーも盛況に終わることが出来、収益は東日本大震災に募金しました。会場となったエントランスホールには多くの患者さんや地域の方が集まり楽しいひと時を過ごしました。(嶋宮記)



